

令和5年度1・2学期 分科会実践及び成果と課題

低学年分科会

第1学年 1組 道徳科 個性の伸長「じぶんだけのしゃしんを-やまぐちすすむ-

2組 特活 学級活動(2)「なかよしクラスになろう」

特別の教科 道徳

- 個性の伸長において、以下の取組を行うこととした。
 - ・自分の好きなもの、得意なことに気付き、紹介する。
 - ・相手の好きなものを聞き、感想を伝える。
 - ・自分の好きなもの、得意なものに対して向き合ったり、努力したりしていこうとする態度を養う。
- これらを行うことは、他者、自己、それぞれのはたらきかけの育成の基盤となる。

特別活動

- 学級活動(2)「なかよしクラスになろう」において、以下の取組を行うこととした。
- ・他者から称賛されたことで、どのような気持ちになったかを教師から問いかけ、「紹介してよかった。」という気持ちをもたせる。
- ・称賛された児童にどう思ったかを教師側が問うことで、その児童が「やってよかった。」「もっとやってみよう。」という気持ちをもたせる。
- ・児童の今までされて嬉しかったことを想起させる過程で、児童同士で称賛し合う機会を設ける。

体育科

- 「ボール投げ遊び」において、以下の学習活動を行い、自己、他者へのはたらきかけの育成を図る。
- ・運動の基礎感覚を養うための補助運動の工夫として、「スキルアップタイム」を設定し、基礎感覚を養い、チームのゲーム活動の中で、それを表現すること、また、教師や児童がそれに対してその場で価値付けを行うことで、自己有用感を高める。
- ・「シェアタイム」や「グッドマップ」では、互いに励ましたり、意見を尊重したりしながら教師の声かけをもとに話し合いを進める。

【成果】○全体の共有場面では、教師を介して友達に称賛してもらおう仕掛けをすることで、紹介してもらった児童がその後、「嬉しい。」等と答えていたことから、自己肯定感が高まったと考えられる。

○教師の問いかけによって、紹介した児童も紹介された児童から「嬉しい。」と伝えられたことにより、自己有用感が高まったと考えられる。

【課題】▲机間指導での教師からの声かけがワンパターンになってしまった。

▲教師からの問いかけに対して、ほとんどの児童の発言が「嬉しかった。」というものに終止し、それ以外の表し方が難しい様子が見られた。

第2学年 1組 特活 学級活動(1)「2年1組のドッジボールのめあてを決めよう」

2組 道徳科 友情・信頼 「ゆっきとやっち」

特別の教科 道徳

- 友情、信頼の内容において、以下の学習活動を行い、自己、他者へのはたらきかけの育成を図るとともに、心情を養う。
 - ・今まで友達を助けた、仲良くできた行動を振り返り、価値付けを行う。
 - ・児童のよりよい姿を紹介することで、自分の行動に価値付けがされる。
 - ・紹介されたときの気持ちを問うことで、相手を思いやろうとする心情を育てる。
- 以上のことを行うことは、自己、他者それぞれのはたらきかけの礎となる。

特別活動

- 学級会で以下の取組を行う。
- ・議題を知り、あらかじめ自分の意見をワークシートに書いたり、話し合いの形式が分かる台本を利用したりすることで、自信をもって意見を出せる。
- ・振り返りの時間をとり、発表回数を明らかにすることで、児童自身が学級会に参加している、クラスの役に立っているという感情をもつことができる。
- ・議題設定の理由「みんなが楽しくなる」ことを重視して話し合いを進めることで、友達の気持ちを考えた意見が出るのが期待できる。

体育科

- 跳び遊び等の個人で取り組む活動でも、グループで活動をさせたことで、アドバイスができる機会が多くなり、以下の3つのことが期待できる。
 - ・アドバイスをした児童は、お礼を言われる。
 - ・アドバイスをされた児童は、技ができることにつながったり、応援をされたりする。
 - ・他者に対して応援しよう、優しくしようという気持ちになる。
- 以上のことは、自己へのはたらきかけ、他者へのはたらきかけを育成する基盤となる。

【成果】 ○主人公の心の移り変わりを「こころのメーター」を使って表す活動を取り入れたことで、一人一人が自分の考えをもつことができた。

○班の友達とワークシートを読み合い、良いと感じたら○印を書き合う時間を作ったことで、自他共に考えを認め合うことができた。

【課題】 ▲ペアでの交流時に、ワークシートの「こころのメーター」において、どのくらいの割合で色を塗ったのかについて意見交流がなかった。

▲ワークシートに○印を書くだけに留まり、話の展開に深みが見られない児童に対しての教師のはたらきかけが見られなかった。